

MS14-2 アレルギー対策住宅への移転前後における室内アレルゲン量とアレルギー症状の対応

志摩拓実¹⁾ 三田村輝章²⁾ 原澤浩毅³⁾ 久田剛志⁴⁾ 土橋邦生⁴⁾
(前橋工科大学大学院工学研究科¹⁾ 前橋工科大学工学部²⁾ ハ
ラサワホーム株式会社³⁾ 群馬大学医学部附属病院呼吸器・ア
レルギー内科⁴⁾)

【目的】アレルギー対策住宅として開発された空気清浄機能を搭載する全館空調住宅における室内アレルゲン量と居住者のアレルギー症状の関連性について明らかにする。【方法】調査対象は、群馬県、栃木県、埼玉県、東京都内の33世帯とし、空気清浄機能を搭載する全館空調システムを設置した住宅と、この住宅に移転する前の住宅における室内アレルゲン量の実測を行い、また、居住者のアレルギー症状に関する検診を実施する。室内アレルゲン量は、浮遊微粒子濃度、浮遊真菌濃度、ダニアレルゲン量、居住者のアレルギー症状は、activeCD4+T細胞比率、呼気NO濃度を評価項目とし、両者の増減率の対応について分析する。【結果】室内アレルゲン量とactiveCD4+T細胞比率の対応より、浮遊微粒子濃度、浮遊真菌濃度では約60~70%、ダニアレルゲン量では約50%の居住者、室内アレルゲン量と呼気NO濃度の対応より、浮遊微粒子濃度では約40~60%、浮遊真菌濃度、ダニアレルゲン量では約50%の居住者が、室内アレルゲン量の低下によってアレルギー症状が緩和した。